

コンセプト

『愛着がうまれる、わたしの広場』

この広場では、市民が自分の好きなように広場をカスタマイズし、自分の好きな場所をつくっていくことができる。誰もが愛着がわくような広場、「地域愛着」を目指して。広場の固定設備である舗装や街灯、欄干などは、美しい風景や思い出のシーンに対する「感情的愛着」を生み出すベースとなる。「機能的愛着」を生むための仕掛けとして、アタッチメントを用いる。

英訳：【愛着= Attachment (アタッチメント)】

- 付着、連結、接続、取り付け

- 愛情を持つこと、愛着、愛情

アタッチメントにより、イベント時だけでなく通常時にも、市民の主体的な活動を誘発し、個人のお気に入りが集まつた豊かな広場となる。

ダイアグラム

広場は○△□の3つの要素をベースに構成されます。ベースとアタッチメントの組み合わせが無限大の居場所を作る。

ガイド（グリッドシステム）

舗装デザインをグリッドで構成することで、機能的かつ整頓された美しい広場を作ることができる。また、グリッドはアタッチメントの際に補助線となり、既存の構造物とグリッドのズレが利用者の関わりしろとなる。

よりどころ（照明、欄干、ベンチ）

照明や欄干などの固定設備は、ロープやタープなどをアタッチメントすることができる仕様となっている。そこがよりどころとなり居場所が生まれる。グリッドと構造物とのぞれでできた歪な形は、人との場所、人同士の関係に強弱をつくり、新しい空間を生み出す。

めじるし・よはく（あかり、舗装、凹凸）

街灯の灯りに集まる人、夜間のライトアップで浮かび上がる広場、のような賑わい空間をつくる。グリッドの上に構築したパークレットを円形で切り欠き、ベンチやテーブル、花壇を取付けることで、人の居場所を生み出す。

幾何学のなかに、優しい包まれた空間を生み出す。

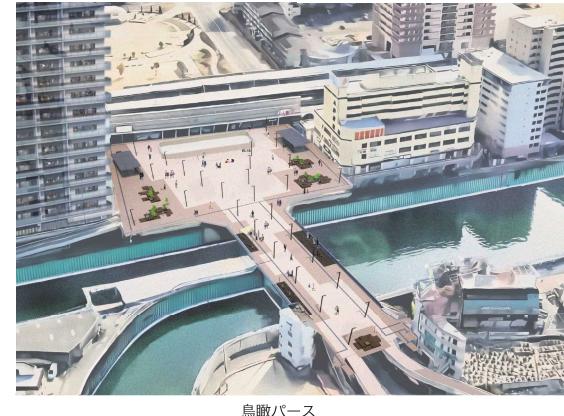
アタッチメント（可動式什器や取り付けアイテム）

ベース（□：補助線 △：支持体 ○：居場所）にアタッチメントすることで、市民が自由に新たな居場所をつくり、多様で美しい景色を生み出すことができる。

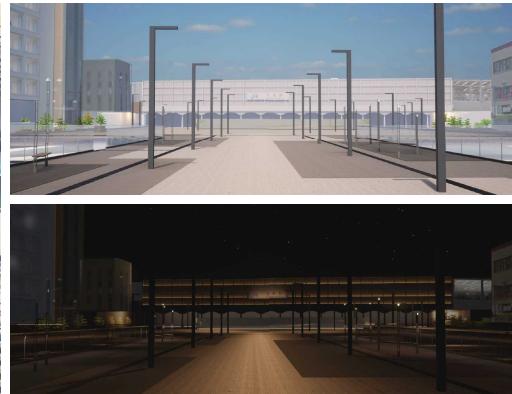


ベースとアタッチメントの関係

イメージ



鳥瞰バース



橋梁部から駅前広場を望む（上：昼、下：夜）



左上から時計まわりに、インフォメーションゾーン・たまり場・待合広場・でこぼこ広場



平面計画

多様なイベントに対応するため、吹き抜けを塞ぎ、フラットで大きな空間を広場にする。照明のポールや欄干はアタッチメントのよりもかかりとしても機能する。日没後には光が駅前の景色を描き出す。グレアレスの眩しさのない照明は上質な印象を演出し、欄干沿いの重心の低い光はくつろぎの場を形成する。照明設備に電源を仕込み、イベント時の電源確保を容易にする。舗装に関しては、居場所ごとに異なる舗装を採用することで、居場所の視覚的な区別ができる、より快適な空間を楽しむことができる。夕暮れ時や夜間における特別なイベントや日常の賑わいの場として、大東市の中心地である住道駅前が新たな魅力と活気に満ちた場所となることを期待する。



インフォメーションゾーン

イベントや大東市の情報を広報できる環境を整備する。

駅前広場

多様なイベントに対応できるスペース。

待合広場

階段に屋根を設け、待ち合わせができる空間。

でこぼこ広場

ベンチやプランターによってくつろぎの場となる。

たまり場

アタッチメントにより、多様な憩いの場が生まれる。

※イメージや平面計画は検討段階のものであり実際とは異なる可能性があります。